



準々決勝の明石商戦に向けて意気込みを語る八字光星の仲井宗基監督。17日、兵庫県西宮市内

## 「東になって挑む」

### 仲井監督インタビュー

第101回全国高校野球選手権で、青森県代表の八字光星は、18日の準々決勝で明石商（兵庫）と対戦する。光星の仲井宗基監督に、

勝利のポイントなどを聞いた。（聞き手・金濱千優希 写真・大粒来仁）  
 ーチーム状態は。

16日の3回戦後、次戦に向けて改めて気持ちを引き締めた。心身の疲れは当然あるだろうが、相手に見せれば勝負にならない。

ー明石商の印象は。

前回大会の初戦で対戦し、その時は勝利したが、昨年と今年では互いに別のチームだ。春のセンバツ4強で、3季連続で甲子園に出場しており、経験豊富。隙を見れば一方的な試合になる可能性もある。地元校で勢いがあるので、相手を上回る闘志を見せたい。

ー警戒する選手は。

エース右腕の中森俊介の速球にやられないようにしたい。ただ、兵庫県予選に比べると調子を落としたようにも見えるので、付け入る隙はあるはず。3回戦で、

（中森と同じ）右腕で本格派の江越永輝と対戦できたことが、自分たちの打線にとっては好材料だったかもしれない。

打線は先頭打者の来田涼斗を抑えたい。ただ、中軸

は長打力があり、小技も使ってくる。翻弄されないようにしたい。

ー勝利のポイントは。

3回戦で、これまで不調だった原瑞都や伊藤大将が打てたことは良かった。た

だ、個人の成績よりも打線のつながりを重視して得点を重ねたい。投手陣は、自分たちで乱れている部分もあるのでフォームを調整したい。全員で東になって挑み